



いっしょに歩こう！ プロジェクト

日本聖公会東日本大震災被災者支援

News Letter

第 11 号

2012 年 7 月 1 日発行



▲ 室根聖ナタナエル教会で

▲ ひまわりにて通所者（左）とじゃがいもの袋詰め作業

大韓聖公会訪問団来訪

キム グンサン
金 根祥首座主教
「涙と痛みを乗り越えて」

加藤博道東北教区主教
キム グンサン
「金 根祥主教ご訪問への感謝」

新地ベース開所

いっしょに歩こう！プロジェクト
4つ目の拠点誕生

十三浜ワカメ収穫 ボランティア終了

全国からのご協力に感謝！

5月15日、大韓聖公会の金根祥^{キムグンサン}首座主教（写真中央）を始め、オモニ連合会（婦人会）会長、信徒会長、宣教委員長、社会宣教団7名、韓国聖公会新聞記者、通訳として柳時^{ユシギョン}京司祭が公式訪問団として被災地を訪れました。訪問団は2組に分かれ、金首座主教、他3名は加藤博道主教、木村若子東北教区婦人会会長らと共に沿岸部を車で移動しながら被災地を視察しました。福祉の現場で働いている社会宣教団の7名は、宮城県気仙沼市の社会福祉法人「洗心会」が運営する「ワークショップひまわり」と「夢の森」を訪れ交流の時を持ち、その後老朽化した岩手県一関市室根聖ナタナエル教会横の伝道師館の解体作業を行いました。

涙と痛みを乗り越えて

キム グンサン
パウロ 金 根祥 大韓聖公会首座主教・ソウル教区主教

去る5月15日と16日の2日間、大韓聖公会の公式訪問団として7名の社会宣教団と一緒に、加藤主教とプロジェクトスタッフの方々のご案内で被災地を見て回りました。震災直後にお伺いしたかったのですが、申し訳ないことに1年経ってようやく現地に立つことが出来ました。



大韓聖公会訪問団とプロジェクトスタッフ
室根聖ナタナエル教会にて

磯山聖ヨハネ教会の歴史を聞きながら、美しい海辺の村で築いた信仰の歴史そのものが、ひとたびの大津波によって流されてしまっただけとはいかない、と祈りました。ふじ幼稚園（宮城県山元町）と74名の小学生と10名の教師が犠牲になった宮城県石巻市大川小学校では、その子どもたちの叶えられなかった夢まで背負わなくては、と祈りました。石巻を走り抜けて気仙沼まで、いたるところに広がる被災地を目の当たりにしたとき、呆然とするほどの爪痕の連続に驚きました。最後に訪ねた室根聖ナタナエル教会（岩手県一関市）で、教会横の伝道師館の解体作業中に見つかったという聖愛日曜学校のかつての看板から、信仰の諸先輩たちの労苦を思い知らされました。短い訪問でしたが、ずっと惨たんたる気持ちを抑えることが出来ず、訪問先ごとに頭をさげて、みんな涙ぐんで祈りを捧げて参りました。同時に私は、太平洋の反対側まで被害が及ぶほどの大津波の影響からして、韓半島にも及ぼしう大災害を、日本列島が防いでくれたことも、身を持って感じました。



左：伝道師館解体作業



右：発見された日曜学校の看板

現時点では、いつ本来の暮らしに戻れるか見通しが立たないかのように思えますが、日本聖公会のすべての教区・教会・信徒がお祈りと誠意を寄せていることや、「いっしょに歩こう！プロジェクト」の魂を込めた労苦から大きな感動を受けました。全世界の人々が日本を見ています。東日本大震災以降の教会のありようについても、知恵を集める必要があります。原発事故による被害と対策に関して言えば、教会のみならず全人類の文明史的な反省と実践が求められる地点に立っていることでしょう。

日韓聖公会の宣教協働 30 年(1984-2014)を眺めながら、トピック(TOPIC)と沖縄平和協議会、日韓青年キャンプ、社会宣教研修など、様々な日韓協働委員会の合同事業を通して、そして日本各地で働いている 19 人の大韓聖公会教役者らの活動によって、真の協働宣教が持続されることを心から望みます。何より、東日本大震災被災地のための支援活動にも、今回の訪問団を始めとして、現地訪問、その他可能な方法で皆さんと共に祈り、汗を流しながら歩いて行きたいと思います。神様の創造の秩序を回復し、守り続けるためには、今の涙と痛みを乗り越えることが大変重要です。主イエス様が一緒に歩いてくださることを信じます。(訳文：司祭 ユンギョン 柳時京)



宮城県女川町にてスタッフから説明を受ける訪問団



福島県磯山聖ヨハネ教会の礼拝堂で
信徒の方々と共に祈りを捧げた

金根祥主教ご訪問への感謝

ヨハネ 加藤 博道 本部長・東北教区主教

大韓聖公会首座主教、ソウル教区主教、^{キムグンサン}金根祥師父の被災地ご訪問に心から感謝します。震災直後から多くのボランティアと共に被災地に駆けつけたというお気持ちが痛いほどに伝わっていましたが、双方の状況によりちょうど「いっしょに歩こう！プロジェクト」が2年目を迎えたこの時のご訪問となりました。

子どもたちの犠牲者を出した幼稚園、小学校の前で、磯山の教会で、本当に泣かれながら祈られた祈りの言葉は、深い悲しみと犠牲者への共感、そして私たちへの励ましに満ちていました。日本、韓国（朝鮮半島）の歴史を思う時、今このように熱い祈りと支援が韓国から寄せられることに、特別な感謝と、韓国キリスト教の信仰的な力を強く感じさせられています。



大川小学校の献花台で
^{キムグンサン}
祈る金根祥主教

walknow!
いま どこを歩いているの？

プロジェクトが、どこを、誰と歩いているのか知ってほしい！
これまでご紹介したプログラムのその後など、現在の活動の様子をお伝えします。

■新地町（福島県相馬郡）／新ベース開所

2012年6月9日いっしょに歩こう！プロジェクトの4番目の拠点、新地ベースとして「被災者支援センターしんち」が開所されました。開所式には仮設住宅の自治会役員を含む入居者、磯山聖ヨハネ教会の信徒、行政区長、町職員、ふじ幼稚園職員、仙台基督教会の信徒ら57名が出席しました。礼拝を捧げ、その後写真でプロジェクトの1年の歩みを振り返りました。

新地町では震災発生直後から物資の搬送等の緊急支援を開始し、避難所から仮設での支援へと展開してきました。今後ベースの集会所ではお茶会、体操教室等を開催する予定です。又、多目的スペースとしても地域に解放する予定です。※新ベースの詳細は次号でお知らせします。



■十三浜（宮城県石巻市北上町）／漁業者支援

津波被害の只中で生業（なりわい）再建へと尽力されている漁業者を支援するため、2011年5月から生活物資支援、「十三浜わかめ復活・支援サポーター制度」の紹介を行ってきました。2月～4月はわかめ収穫期のため加工作業を手伝わせていただきました。延べ46名、全9班のボランティアの参加を得て2012年4月26日わかめ収穫期加工ボランティアを終了しました。



プロジェクト2年目のスタート!!

「いっしょに歩こう！プロジェクト」はスタート以来、全体の責任者としての植松誠首座主教、管区常議員会のもとに10名の運営委員会（委員長・大町信也司祭、北海道教区）、そして仙台に具体的な活動面の責任を担う本部会議とオフィスが置かれ事務・広報部門と、多くの教区からのスタッフがそれぞれの任務をもって活動、釜石、小名浜の支援センターとも緊密に提携しています。

本部会議は本部長・加藤博道東北教区主教、事務長・松村豊（東京教区）、プログラムディレクター・長谷川清純司祭（今後はとくに新地担当）、活動全体を統括する総合ディレクターの4名で構成しています。その総合ディレクターの任は最初の1年、中村淳司祭（東京教区）が管区の特命主事として担い、貴重な働きをされました。2年目を迎え、この任を池住圭さん（中部教区）が引き継ぎ、副本部長ともなっています。どうぞ今後ともよろしくお支えください。

（事務長・松村豊）



中村 淳司祭
（東京教区）



池住 圭さん
（中部教区）

仮設支援

- ◆ 談話室プログラム／
釜石市（大畑仮設、松倉仮設、野田仮設）
- ◆ 体操プログラム／釜石市（上中島仮設）
- ◆ 買い物バスツアー／名取市（箱塚桜団地）
- ◆ ほっこりカフェ（日本同盟基督教団他と協働）／
いわき市（泉玉露仮設、渡辺町昼野仮設）
- ◆ お茶会、ゴールデンシアター／新地（広畑仮設）
その他にも…戸別訪問、じゃがいも配り、お菓子作り
教室、俳句を楽しむ会、集会場改修工事、ベンチ・に
わとり小屋制作、マッサージ、カットサービス、プー
ル学院短大による演奏会

外国人支援

- ◆ 個別支援（病院・市役所・集団移転説明会への付き添
いなど）／石巻市、南三陸町志津川、多賀城市
- ◆ 英語講師養成講座／石巻市、南三陸町、多賀城市
- ◆ 入管法改正に関する勉強会／仙台市
- ◆ ヘルパー資格取得プログラム／南三陸町志津川
2011 年 6 月から志津川に住むフィリピン人女性を対
象に、ホームヘルパー 2 級の資格取得に向け「日本語
教室」を開催。福祉カレッジとの連携で特別講座、実技
演習、実習と進み、2012
年 4 月には受講生 6 名が
資格を取得。4 月 28 日
修了式を行った。



障がい者支援

- ◆ 商品買い上げ支援／
仙台市（まどか荒浜）、気仙沼市（ひまわり）
- ◆ 大韓聖公会社会宣教団訪問、交流／
気仙沼市（社会福祉法人洗心会）
- ◆ 新販売所看板、新ラベル作成／気仙沼市（ひまわり）

その他

- ◆ 花市で「足湯」サービス／大船渡市
- ◆ 県立釜石高校にて映画上映会／釜石市
- ◆ 釜石神愛教会 80 周年記念礼拝／釜石市
- ◆ 大韓聖公会金根祥^{キムグンサン}主教一行被災地訪問
- ◆ 大韓聖公会社会宣教団 被災地訪問、室根で作業
- ◆ 大阪教区川口基督教会信徒・教役者被災地訪問、ロジ
スティック作業／仙台市、新地町など
- ◆ 中部教区長野伝道区信徒・教役者被災地訪問／気仙沼
市、南三陸町、新地町など
- ◆ スーパーハウスから仮設へ荷物移動援助／仙台市宮城
野区岩切
- ◆ 新地ベース開所式／新地町
- ◆ ナイトプログラムふじ幼稚園関係者と／新地町

◆ 岩手県 ◆ 宮城県 ◆ 福島県内の活動を示します。
紙面の都合上、掲載されていない活動もあります。
詳細は各ベースのブログをご覧ください。
ホームページ : <http://www.nskk.org/walk/>

コラム あの日あの時、この人と。

①小名浜のシャローム

神戸教区の中原司祭が昨年 3 月以来、1 年ぶりに聖テモテ教会で主日礼拝の司式説教を執り行いました。復活節の説教では、「シャローム」とは単なる挨拶という意味のほかに「励ましの気持ちが入っている」と言うことを話されました。そして、イエス・キリストは弟子たちと共に食事をすることで安心感を与えていたのではないかと。

小名浜ベースでは「ほっこりカフェ」を定期的に開催しています。主に泉玉露仮設と渡辺町昼野仮設で行い、入居者の方々といっしょにお茶を飲んでお話をします。私たちボランティアにとって「こんにちは」「いっしょにお茶を飲みませんか」という声掛けは、知らず知らずのうちに、このことを体現していたのかもしれない。

（2012 年 4 月 小名浜ベースブログより）

■ 編集後記 ■

いっしょに歩こう！プロジェクトの活動も 1 年を過ぎ、スタッフは被災された地域の様々な変化を日々感じています。被災地の方々の声も変わりつつあります。それに伴い、プロジェクトとしての活動も大きく変化してきました。このニュースレターも 10 号までは各地域での働きを 1 つ 1 つ取り上げて紹介してきましたが、11 号から少し装いを変えてまいります。もっとわかりやすく、もっと多くのことを皆さんに感じ取っていただくため用いられますように！ハレルヤ！（広報）



いっしょに歩こう！プロジェクトニュースレター第 11 号 2012 年 7 月 1 日発行

「いっしょに歩こう！プロジェクト」事務局 OPEN 月～金 10:00～17:00 CLOSE 土・日・祝

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 3-4-5 クライスビル 2F TEL:022-265-5221 FAX:022-748-5321

E-mail: walk@nskk.org ホームページ: <http://www.nskk.org/walk/>